

O1-069

医療機関における積極的な子育て支援を目指した学習プログラムの実践報告

池田 友美¹、鎌田 佳奈美¹、亀田 直子¹、
中山 祐一¹、辻 佐恵子²¹摂南大学 看護学部、²北里大学 看護学部

【目的】

A地域は、5つの公的病院や3つの医療系大学があり、市民の健康増進や地域医療のさらなる充実を目指しコンソーシアム(共同事業体)を設立している。今回、コンソーシアム事業の一環として、A地域全体で子育て支援内容や課題を共有し、共に検討することを通じて特に医療機関での子育て支援の質を高めることを目的に学習会を企画した。

【対象と方法】

対象は、A地域で子どもと家族のケアに携わっている専門職を対象とした。学習会は、「子どもと家族の育ちを支えるケア学習会」と名付け計5回を予定しており、1回のみの参加も可能としている。学習会のプログラムは、「子ども虐待の予防に向けた支援に対する看護師の困難感の調査結果」(鎌田ら、2013)に基づき作成した。看護師が感じている困難感として、[家族の支援ニーズの見極め][家族への直接的なかわり][他機関・チーム間の協働][看護師自身の心身の負担][病院でのかかわりの限界]が明らかになっている。これらの困難感を看護師の学習ニーズととらえ、学習会のテーマに適した講師を依頼した。講師には大学教員、小児専門看護師、保健師、臨床心理士を迎え、それぞれの立場から話を聞いてもらっている。会場は、研究者の所属する大学とし、月に1度のペースで土曜日の午前中に行っている。講義を主体に、できるだけ参加者で支援内容や課題を共有できるような情報共有の時間も設けており、座席の配置は対面で座る形式で4～6人程度のグループとしている。

【結果】

学習会の参加者は、A地域の小児病棟に勤務する看護師が大半であり、大学教員、小児専門看護師、保健師、臨床心理士等も参加している。毎回、20名程度の参加者がある。参加者から、関わりの難しい家族への対応や、養育支援を行なうための体制づくりについて知りたいとの声があり、参加者間でのディスカッションで意見交換も活発に行われている。特に違う専門職者からの意見は、議論を深めるためのきっかけとなっている。この学習会を通して、A地域での積極的な子育て支援の連携を強化していきたい。そのためにも、今後、学習会の効果の測定を実施していく予定である。

O1-070

0～3歳児を育てる母親の祖母に対する期待：三世代同居家族と核家族の比較

秦野 悦子¹、瀬戸 淳子²¹白百合女子大学 人間総合学部、²帝京平成大学 健康メディカル学部

【目的】

瀬戸・秦野(2011)、秦野・瀬戸(2012)による乳幼児期の子育て支援調査より、子育て支援ニーズは、地域特性や子育て親の生活意識に即して必ずしも一律とはいえなかった。また、核家族と三世代家族による子育てネットワークのあり方の違いがみいだされた(秦野・瀬戸 2014)。そこで本報告では、0～3歳児を第一子にもつ母親を対象に、家族の居住形態により、母親の祖母に対する育児支援の期待、母親の子育て感情、それに関連する要因について明らかにすることを目的とした。

【方法】

調査協力者：関東、中部、近畿在住者を主とするが北海道から九州地方在住で、0～3歳児を第一子(Range：9か月～3歳9か月)にもつ母親(M=31.4歳,SD=5.0か月)であり、実親と三世代同居群103名、夫親と三世代同居群103名、核家族群164名の計470名を対象とした。調査期間：2017年1月。内容：祖母に対する育児や家事の手助けについての母親意識尺度27項目の質問(Q21)、母親の育児に対する感情尺度12項目の質問(Q22)を4件法で回答を得た。手続き：株)マクロミル社ネットリサーチにてデータ収集した。また公益財団法人前川財団の平成28年度 家庭・地域社会教育研究助成を受けた。

【結果と考察】

1) 祖母に対する育児支援の期待：設問27項目を固有値1、負荷量0.400を規準に因子分析し(主因子法プロマックス回転)、0～3歳児を第一子にもつ母親の祖母に対する育児支援期待を構成する3因子が抽出された。第1因子は、祖母への積極的関与を期待する12項目からなる「積極関与」因子であった。第2因子は、生活スタイルを切り離すなど6項目からなる「分離独立」因子であった。第3因子は、時間的、精神的、身体的負担など4項目からなる「心身負担」因子であった。2) 母親の子育て感情：母親の子育て感情設問12項目を固有値1、負荷量0.400を規準に因子分析し(主因子法バリマックス回転)、3因子が抽出された。第1因子は5項目よりなる「やりがい」因子、第2因子は4項目よりなる「負担」因子、第3因子は2項目よりなる「自信のなさ」因子だった。3) 「母親の育児感情」と「祖母に対する育児支援の期待」との間に相関がみられた。4) 実親三世代同居、夫親三世代同居、核家族という居住形態の違いによる1要因3水準の分散分析の結果、「祖母への育児支援の期待」や「母親の育児感情」に違いがみられた。